

ケアパス活用検討会議について

1. 経緯と進捗状況

認知症ケアパスは、認知症を発症したときから、生活機能障害が進行していく中で、その進行状況に合わせ、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスその他インフォーマルなサービスを受けられるのかを示し、的確なコーディネートがなされる体制を具現化したツールである。

本市では平成 27 年度から、「仙台市認知症ケアパス」として2つのケアパス（全市版・個人版）の作成の取組みを進めてきた。また、各地域包括支援センター（市内 52 か所）による「地域版ケアパス」の作成も概ね完了し、3種類のケアパスが揃うに至った。

今年度は、この「仙台市認知症ケアパス」の普及・啓発について、課題を抽出し、より効果的な取組みに繋げていくこととするため、「ケアパス活用検討会議」を年 2 回実施し、検討を重ねてきた。また、今年度、ケアパスは全市版を 20,000 部、個人版 20,000 部を増刷し、各機関へ送付・設置している。

2. 「仙台市認知症ケアパス活用検討会議」概要

- ①日 程 平成 30 年 10 月 12 日（金）、平成 31 年 1 月 17 日（木）
- ②参加者 21 名（認知症当事者、家族、医師、認知症介護研究・研修仙台センター、認知症患者医療センター、地域包括支援センター職員、区役所・総合支所職員、地域包括ケア推進課職員）
- ③内 容 課題を抽出し、次年度取り組むべきことを明確化した。

仙台市は、地域包括支援センター職員研修・ケアマネジャー研修での PR、市政だよりへの掲載、医療機関への配布、地下鉄駅等への設置、生協への設置などを次年度以降に検討・実践のうえ、成果を検証する。

参加者を含めた各関係機関は、認知症サポーター養成講座・認知症カフェ・家族会などでの更なる PR、民生委員への包括職員からの紹介、市民センター・コミュニティセンターなどへの設置などを次年度以降に検討・実践のうえ、成果を検証する。

3. 今後の取組みについて

今年度実施のワーキングで出た参加者の意見を踏まえ、今後は本市及び他の参加者それぞれにおいて普及・啓発に努めることとする。

また、「ケアパスの目的・作成に至る背景等をきちんと把握していないとケアパスを手渡しする際にきちんと説明できない」との意見もあったこと、職員間の異動・交代など現実的な面を考慮し、医療機関向け・包括・区役所の窓口での配布時の事例集を作成・配布し、関係者に実践してもらうこととした。（資料 2-①）